

図書館《私の使い方》—— 服部 学道	31
ライブラリー・スケッチ 「書庫」	
————— 小路 沙貴	32

図書館利用案内

4月のピックアップコーナー 「オリンピック」	
————— 栄 咲子	32
おこしやす、図書館へ 「言語学、はじめの一步 (19)」	
————— 入学 直哉、藤井 達也	33
マガジンラック (46) 「知っていますか? 図書館の雑誌」	
————— 栄 咲子	34
シリーズパソコン周辺機器 ③ 「Windows XP サポート終了」	
————— 宮杉 浩	35

図書館員の文献紹介

名作再読、拾い読み (27) 『さようならコロンバス』 (“Goodbye, Columbus”)	
————— 小澤 文彦	36
日本の歴史38 『ヨーロッパに消えたサムライたち』	
————— 稲垣 宏行	37
Book Review Corner —————	38・39

図書館利用案内

ライブラリー・カレンダー 2014 (4月~6月)	
—————	40

● 本誌の表紙に使われた貴重書



Kimura, Mary G.
A day with Mitsu
Tokyo, 1894 (明治27年).
メアリー・G・キムラ 著
『みつの一日』

本書は、ある家庭に三番目の男子として生まれた「みつ」という名の子ども一日を例に、日本の子どもの姿、生活、そして日本の文化全般について紹介したものである。著者の関心は日本家屋の^{たたず}佇まいや、生活道具から人々の服装や習慣にまで及んでいる。

みつの服装はまだ着物で、普段着とよそ行きとでは生地が違う。長い袖には洋服のポケットに代わる機能があり、扇糸、お手玉などの玩具から、焼き餅などの食べ物までが入っていることを、アメリカの少年は羨ましがらうと書いている。また、みつは寺で勉強し、その本は右開きで文字は縦書きであることに驚いている。

著者にとって異文化である日本の文化は奇異なものらしく、日本の宗教的事柄を邪神という言葉を使って表現したり、病人や聞き分けのない子どもにお灸を据えるのを非人道的なやり方だと書いている。みつが寺で習う仏教説話をこの本の読者には信じて欲しくないことだと述べている点や、「蕎麦^{そば}」という単語も使わず、「とても長いマカロニのようなもの」と終始西洋的な目線でしか対象物を見ない説明は、日本や日本文化を理解しようとする姿勢のなさを露呈していると言わざるを得ない。(明治時代半ばのはなしである。)

原寸 19.5×16.3cm

『文明開化期のちりめん本と浮世絵』
(2007年本学図書館刊行) より抜粋